

先端の医療を地域の患者さんに

—より優しい手術の提供を目指して—

近年の外科手術は、さまざまな腹腔鏡手術器具の発達により、腹腔鏡下で行われることが多くなっています。腹腔鏡手術は、患者さんのお腹に数か所の小さな穴を開け、その穴から腹腔鏡や手術器具を挿入し、モニター画面を見ながら行う手術です。従来の開腹手術と比べて傷が小さいことから、患者さんへの負担が少なく、「低侵襲手術」と呼ばれています。

腹腔鏡手術は術式の改良により、さまざまな疾患に導入されており、手術件数も増加しています。加えて、腹腔鏡手術の特徴として、手術野を大きく拡大して観察できるため、より繊細で正確な手術が可能になるという利点があります。



一方、近年では腹腔鏡手術の特徴を活かしつつ、手術支援ロボットを用いた手術が多く、施設で導入されています。これは、外科医（術者）が患者さんから離れた位置で、複数のアーム（腕）を持つ手術支援ロボットを操作して行う手術を指します。

ロボット支援手術は、腹腔鏡手術をさらに発展させたものであり、その特徴として、①繊細な3D画像による術野の把握、②人間の手の動きを上回る鉗子の可動性能、③手ブレの補正、④精密な鉗子操作が可能であることが挙げられます。これらの特徴により、ロボット支援手術は腹腔鏡手術に比べ、臓器機能の温存がより可能で、さらに低侵襲であるとされています。



南大阪病院
外科統括部長 副院長
竹村 雅至

当院では2024年2月より手術支援ロボットを導入し、外科および泌尿器科でロボット支援手術を行ってきました。外科では大腸がん・胃がんに対して手術を実施し、これまでに150例の患者さんに適応しています。

当院は、住之江区・西成区においてロボット支援手術が可能な施設として、今後も地域の患者さんにより優しい手術をお届けすることを目指しています。手術に関するご相談がある方は、ぜひお問い合わせください。



社会医療法人景岳会
南大阪病院

〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1-18-18
TEL.06-6685-0221
[大阪メトロ四つ橋線「北加賀屋」駅から徒歩5分]

